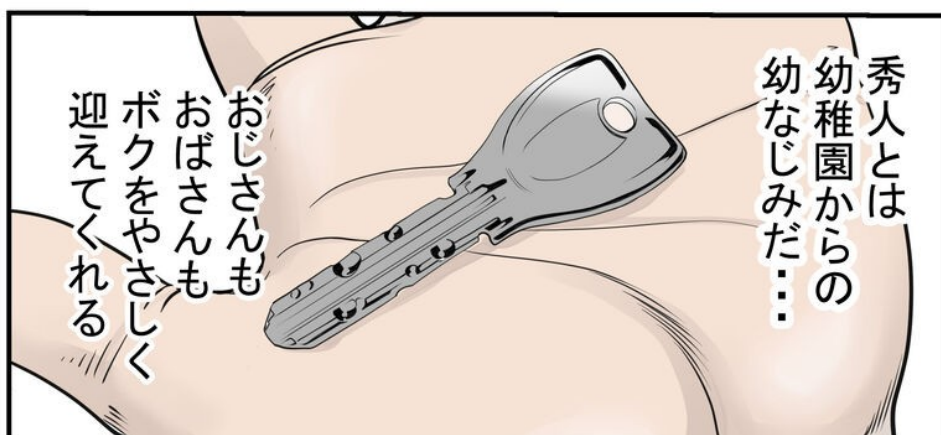
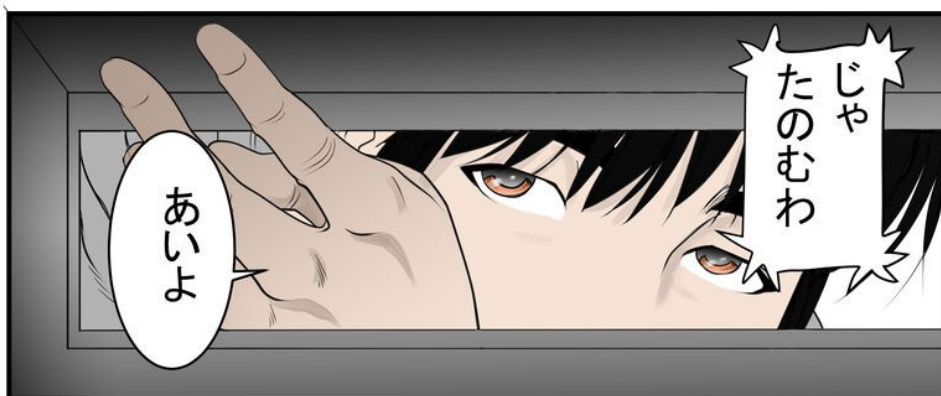
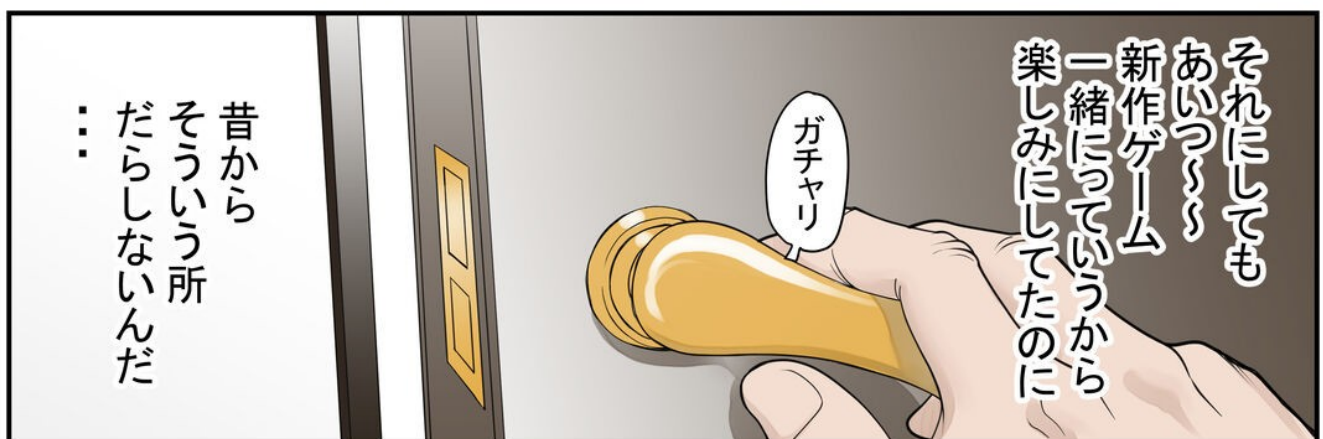
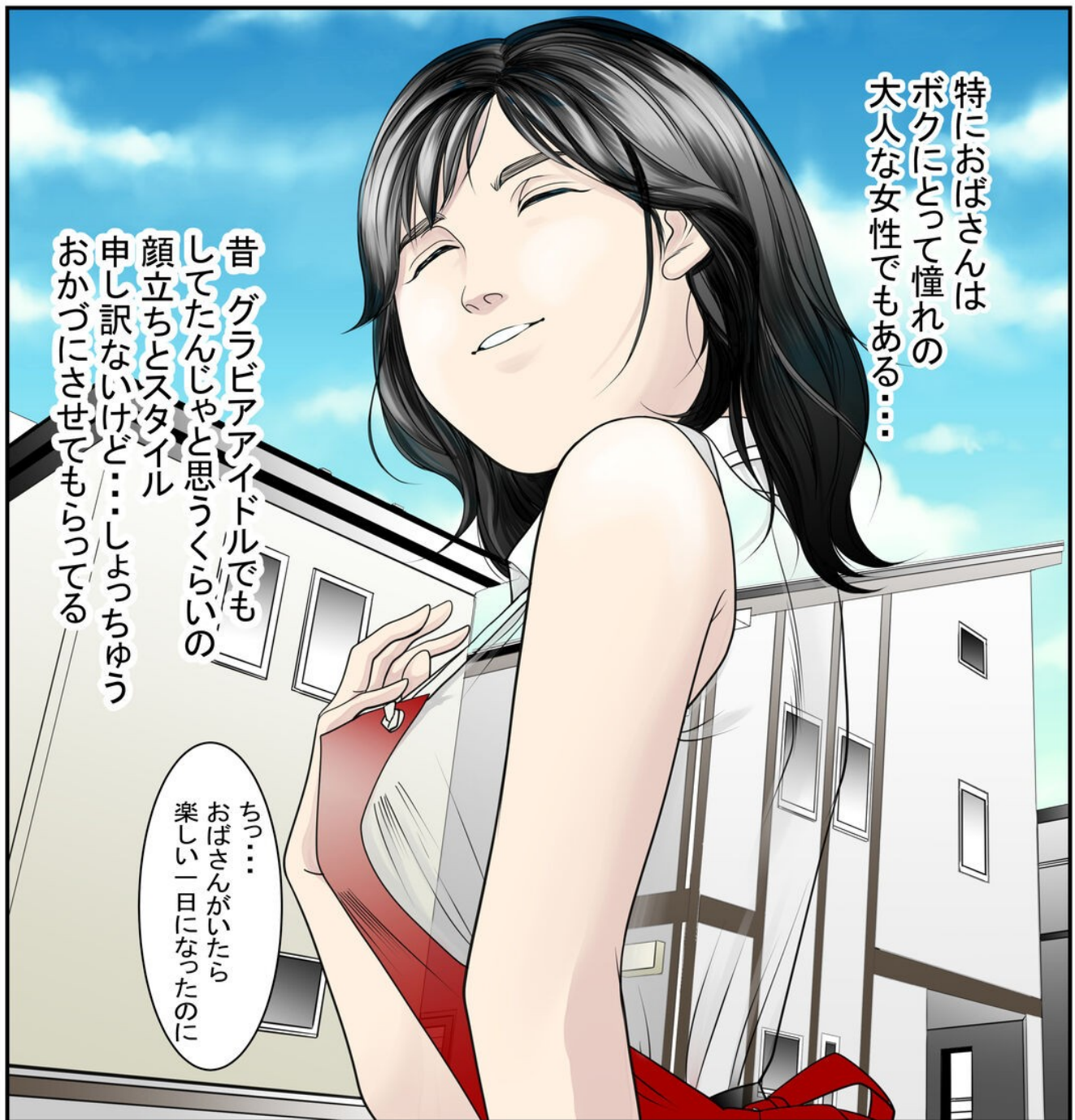
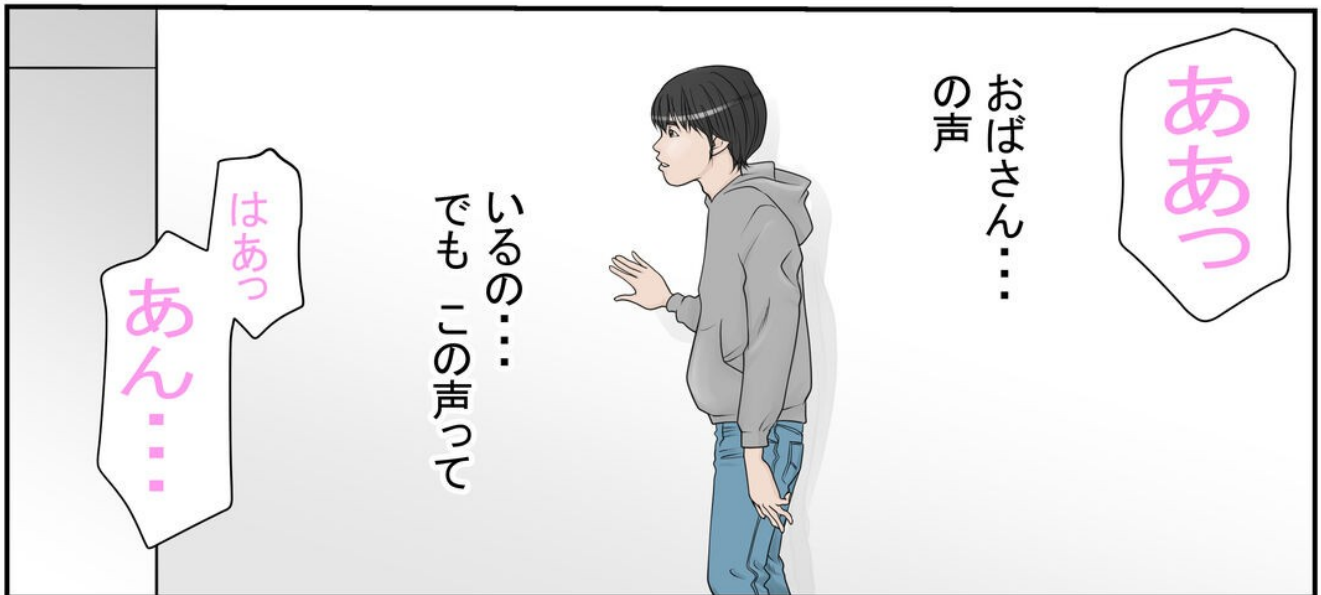
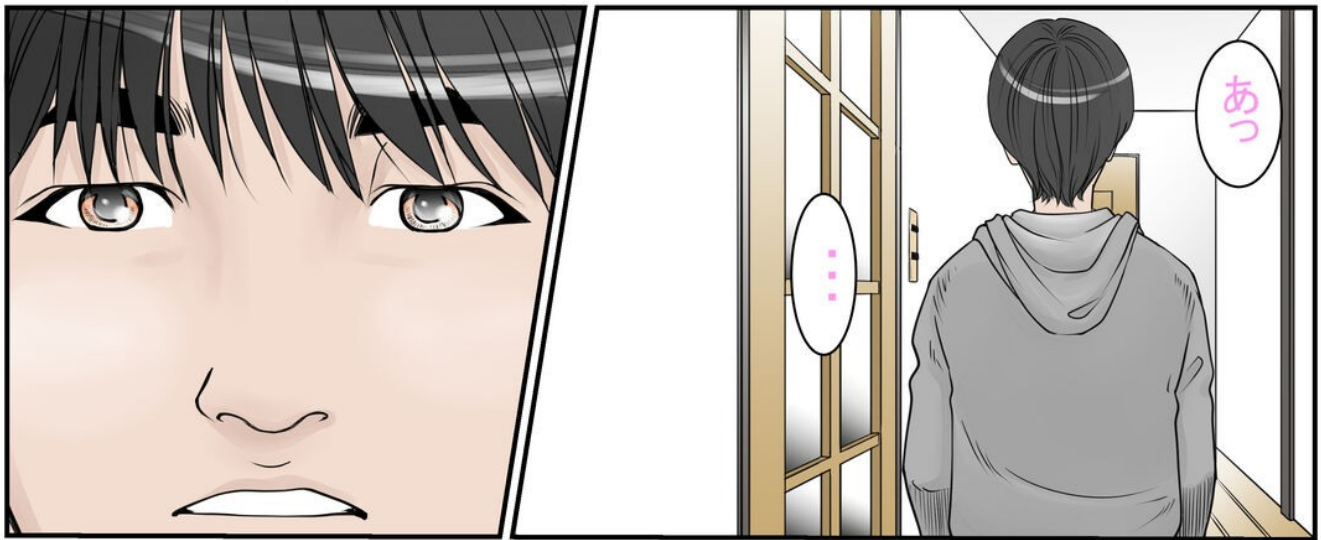
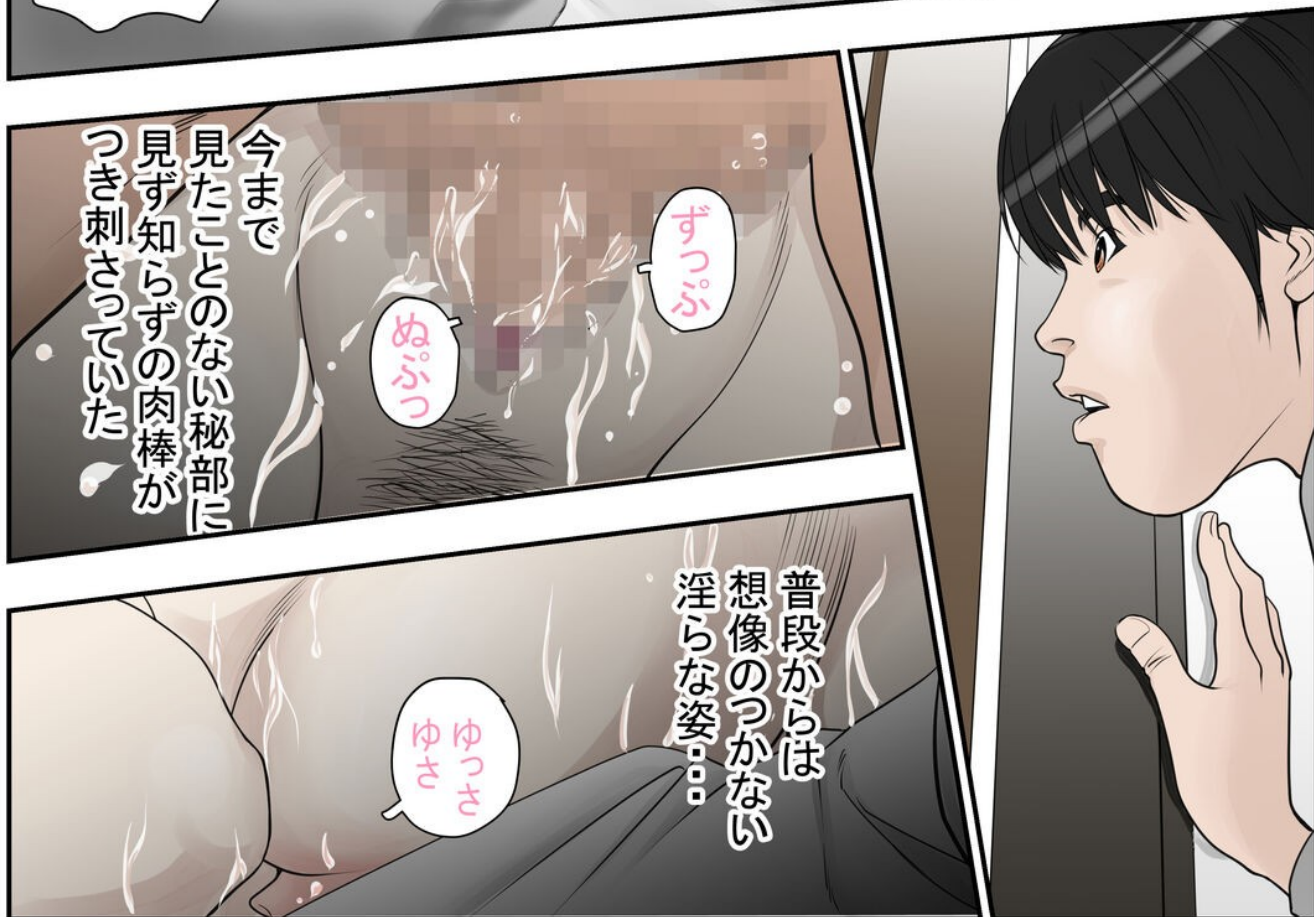
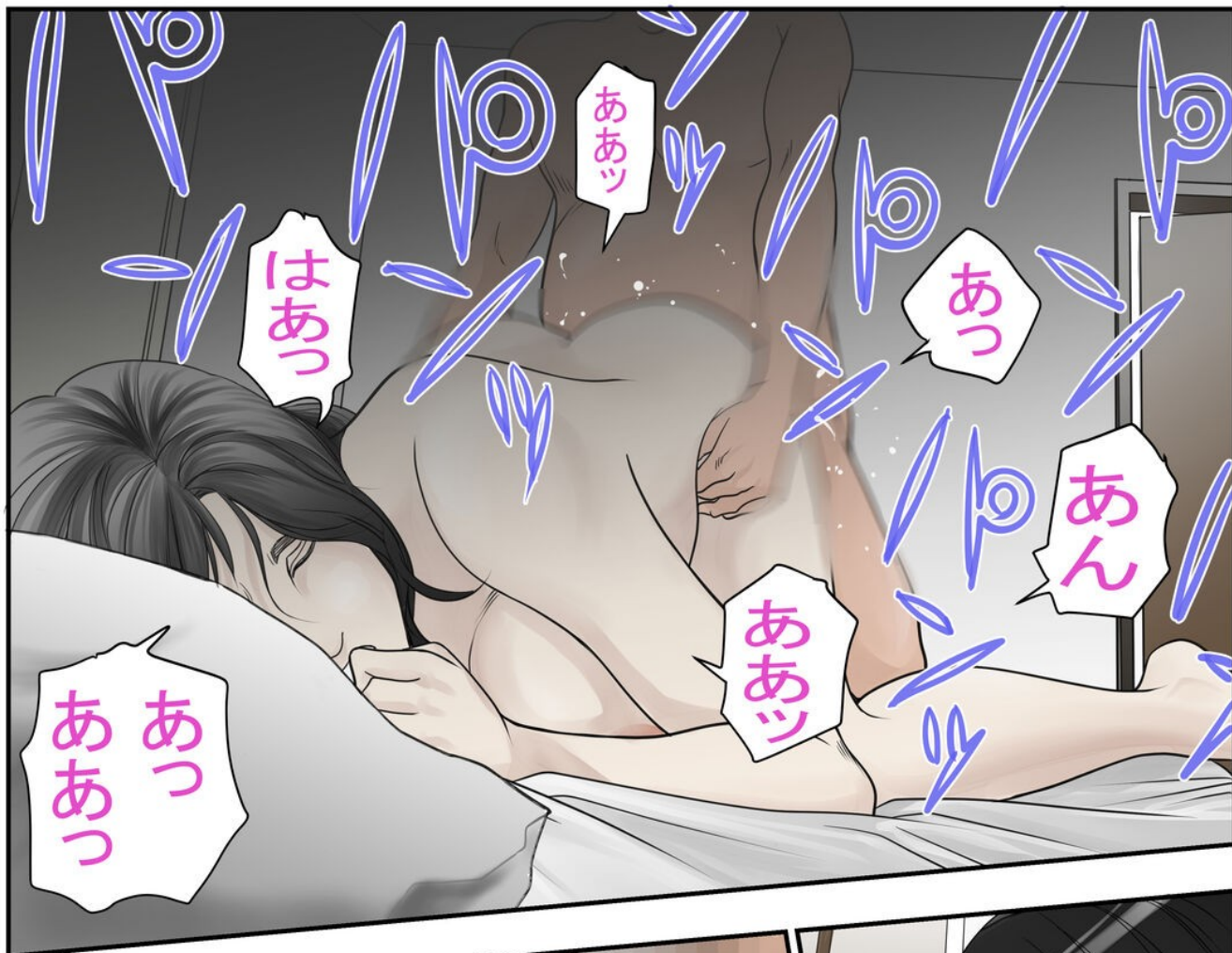












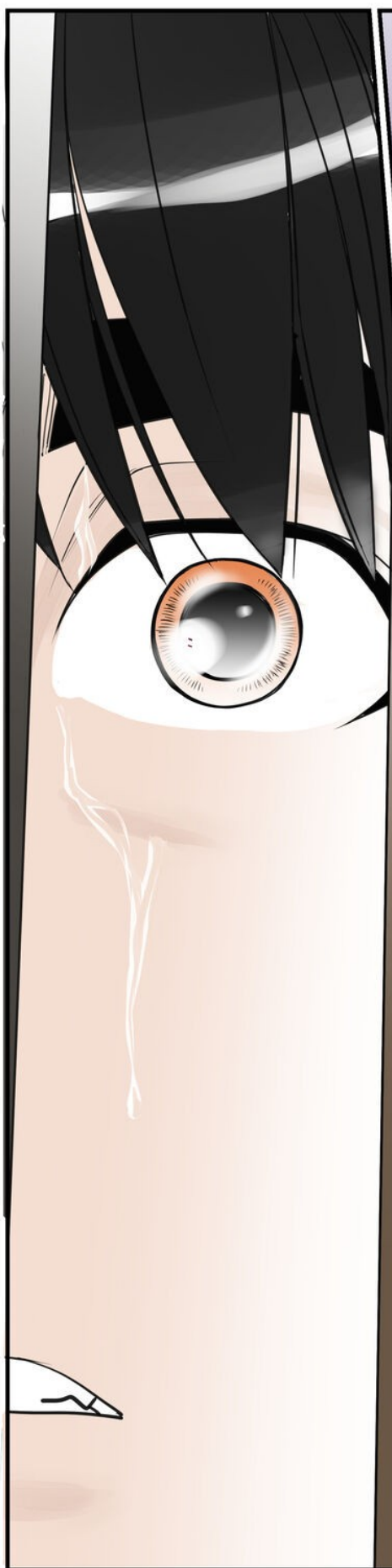
それはたしかに
友人の母親……

もっとな
もっとな

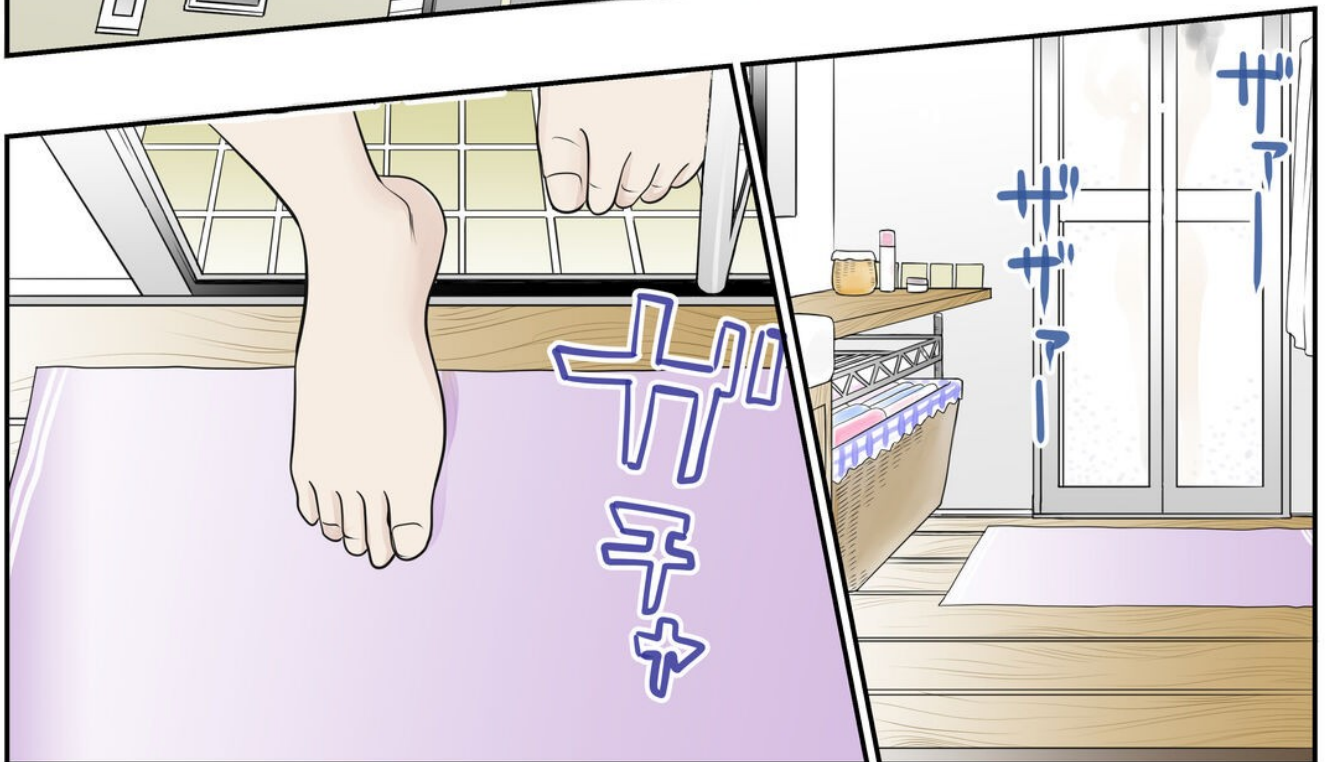
彼女の肉体は
みたことのない男によって
揉みしだかれ喘ぎ
自らも腰を振り続けていた

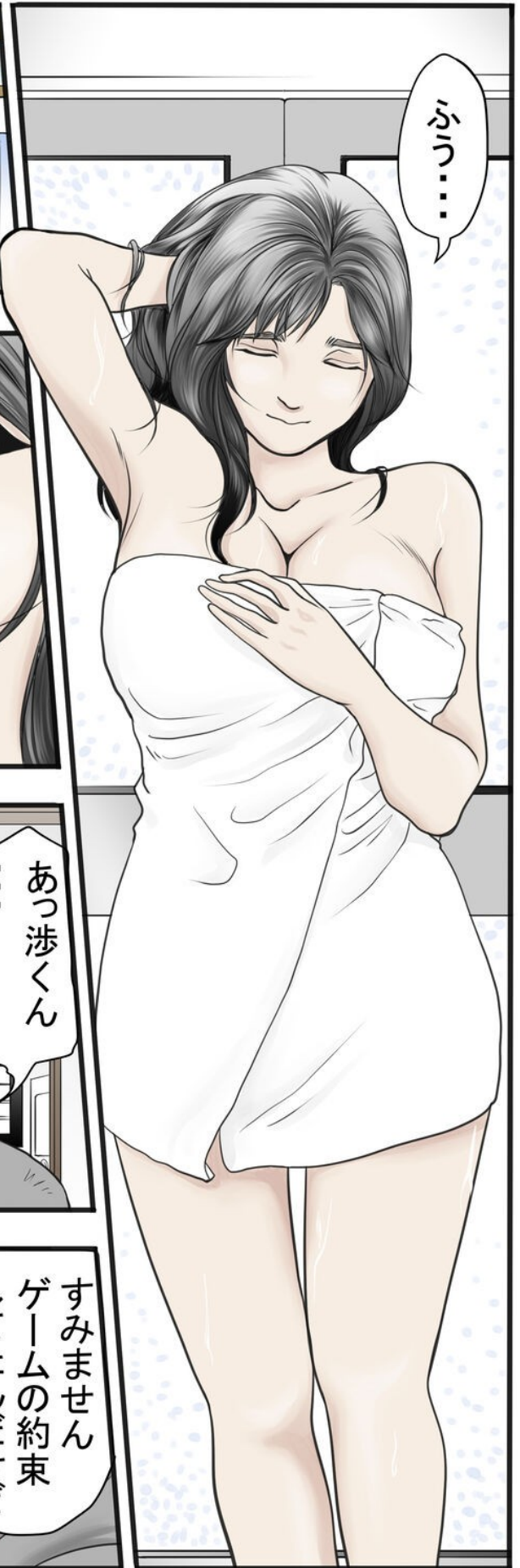
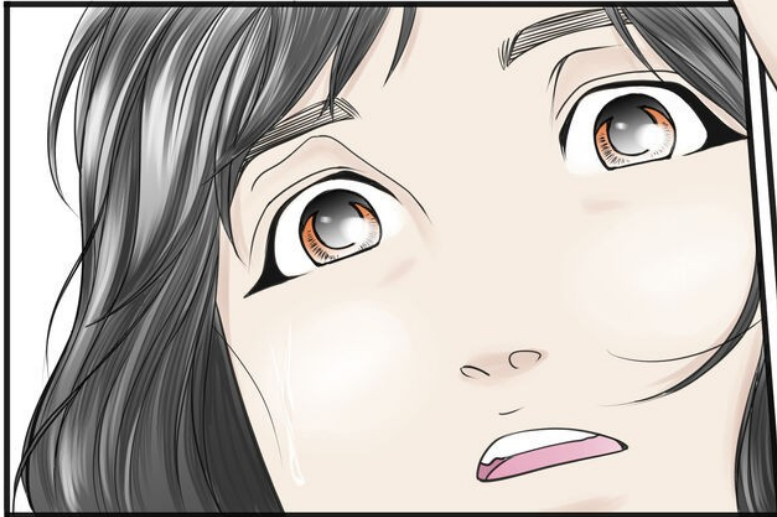
ずりっ

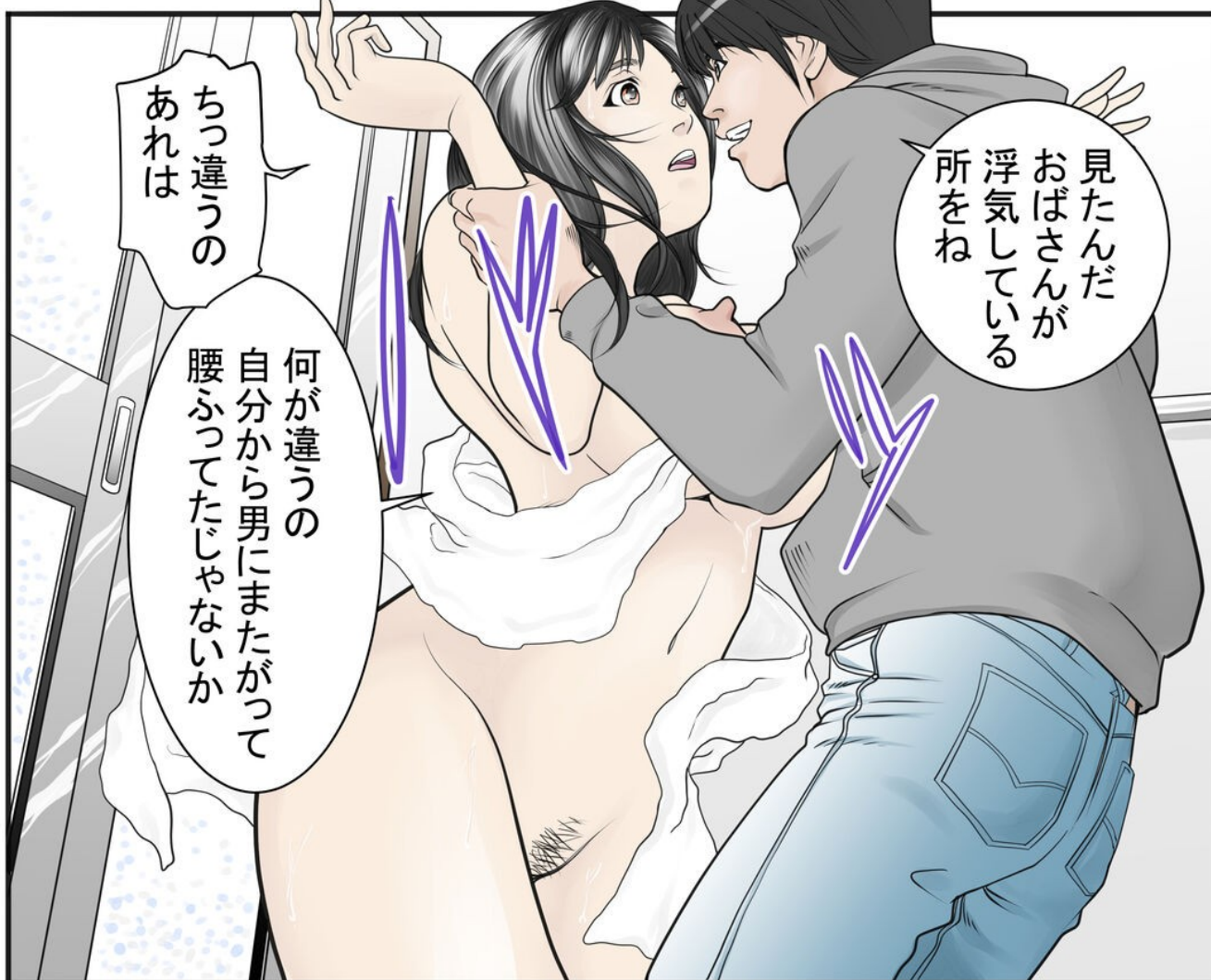
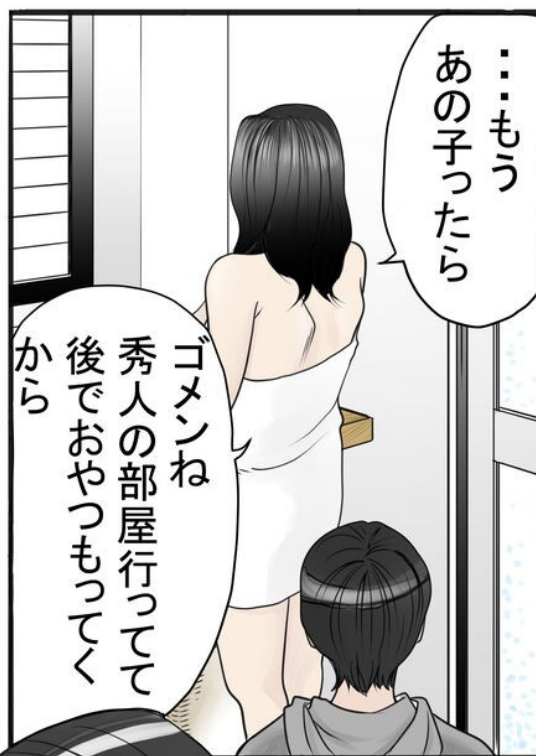
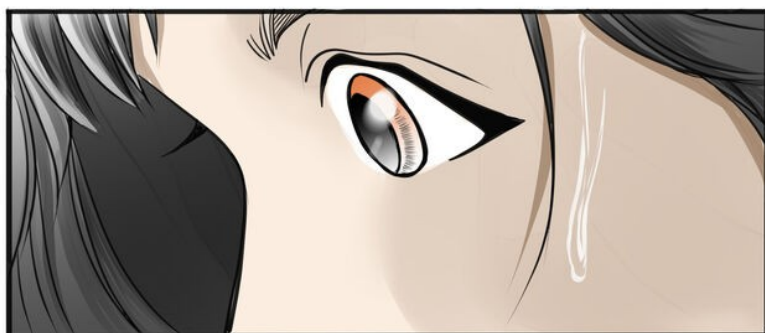
ずるっ



男は…
犯ることをやったら
さっさと帰っていった
車も無かったことから
見つからないように
用心したせいだよーだ









だってそうだろ
あんな男にこの身体
好き放題にさせて

そのまま
済まそうなんて
ずるいよ

ニギ!

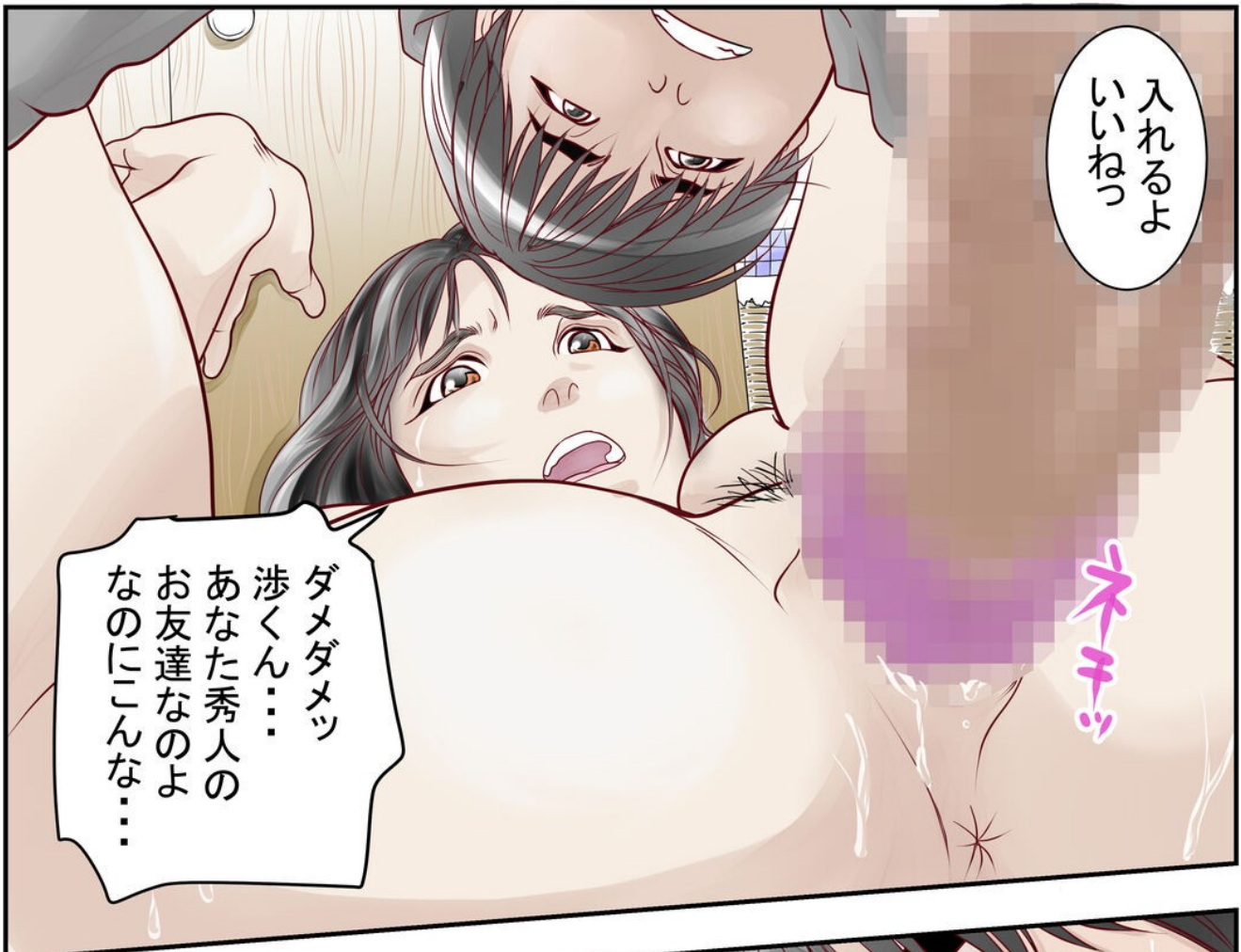
ニギッ

ずるい...

確かめなきゃ

家族を裏切った
身体がどんな
ものか...

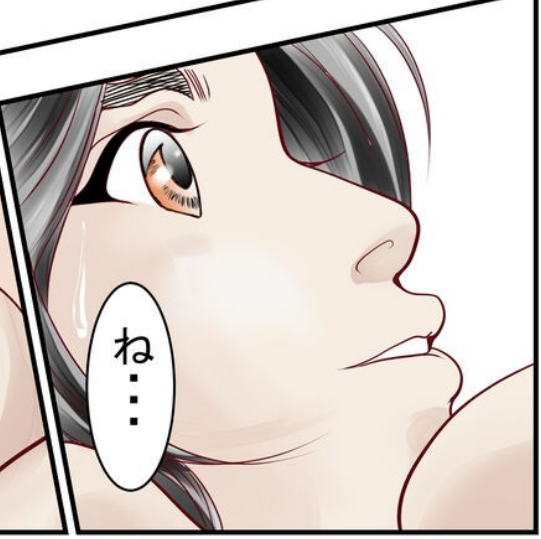
ツ



入れるよ
いいねっ

ダメダメッ
涉くん…
あなた秀人の
お友達なのよ
なのにこんな…

ネチッ



そう
落ち着いて
他のことなら
なんでもっ

ヌチ…

ね…



やめられるわけ
ないだろ
こんなチャンス

ぎゅって

ずっと……ずっと
こうしたかったんだ
おばさんのこと
そんな風に見てた

ズル
ズル

すっ……

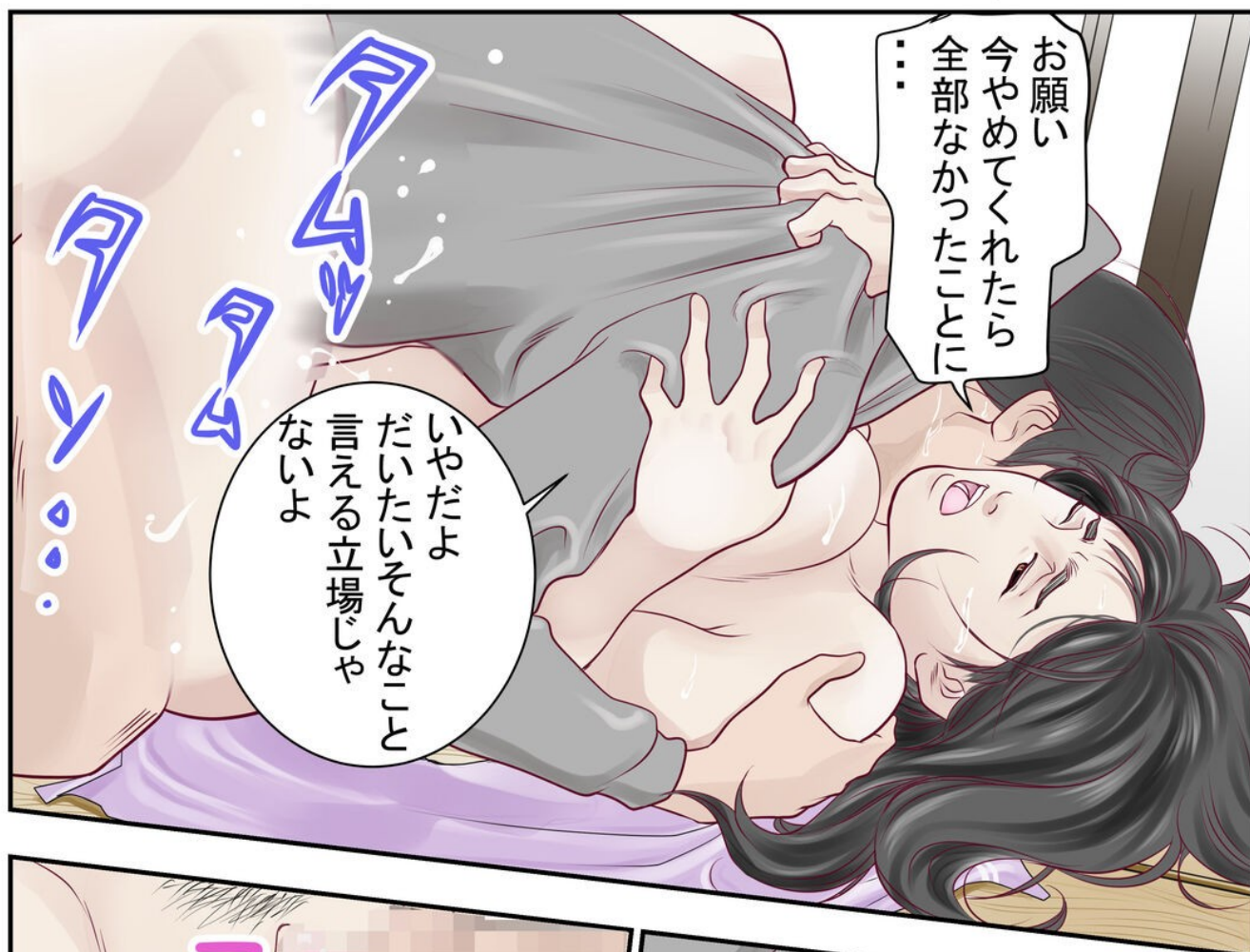
ギュ

ギュウ……

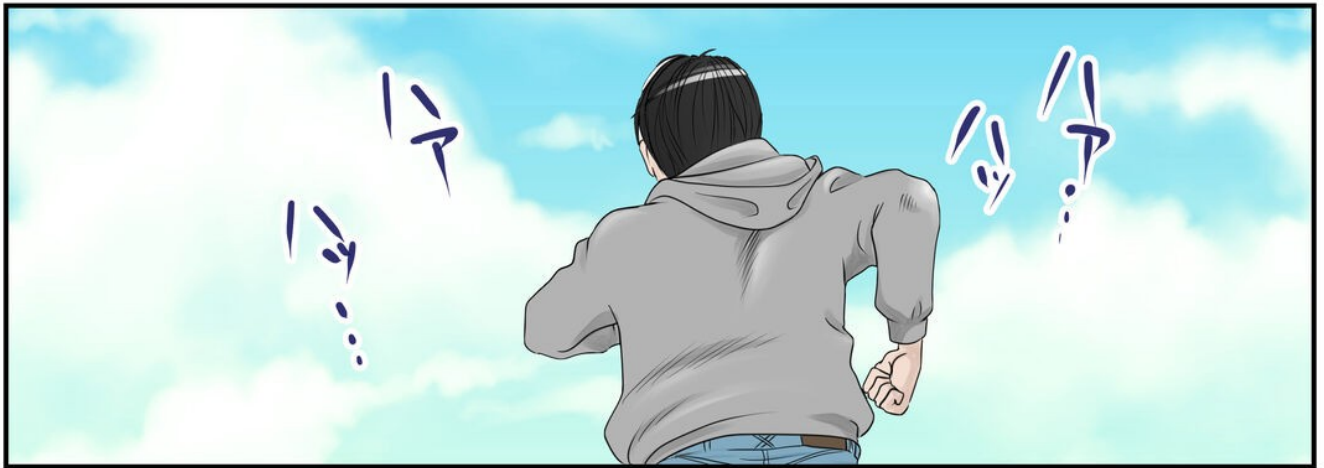
あっああゝ
何コレ
締め付けられる

んんっ

ハア
ハア
ハア

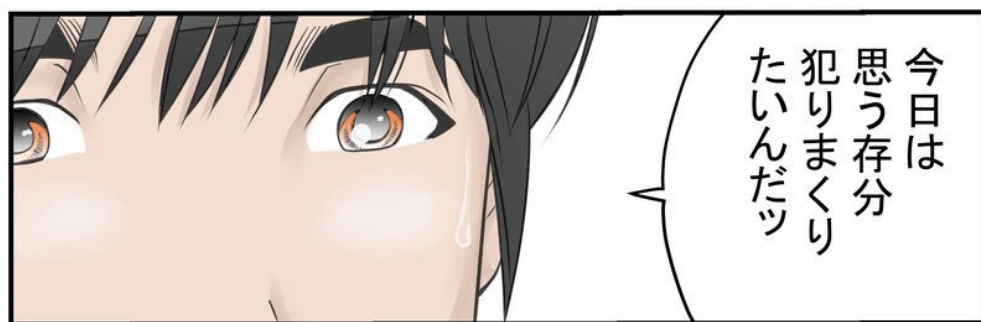
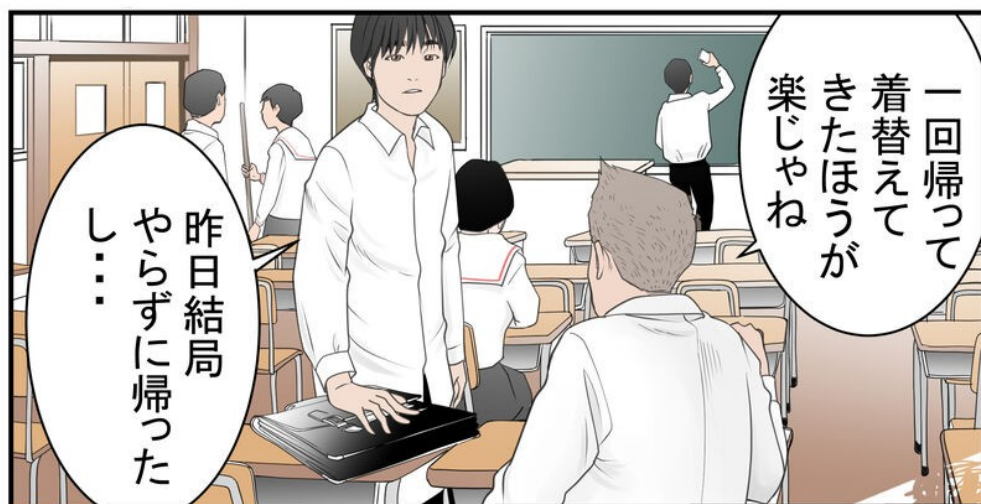


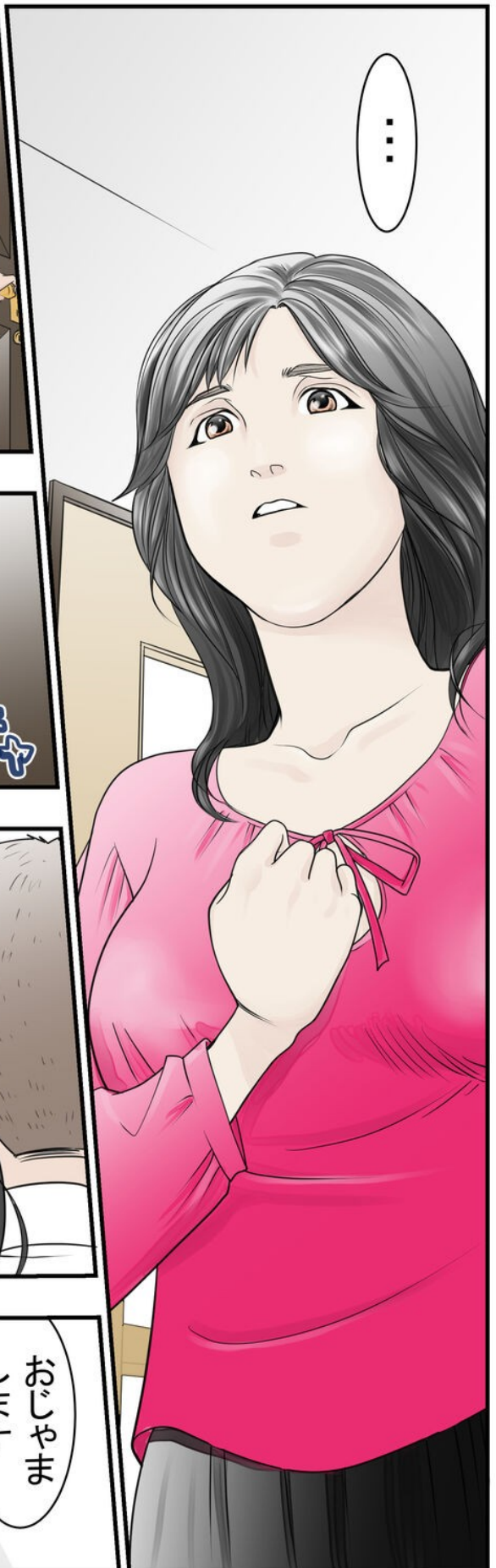
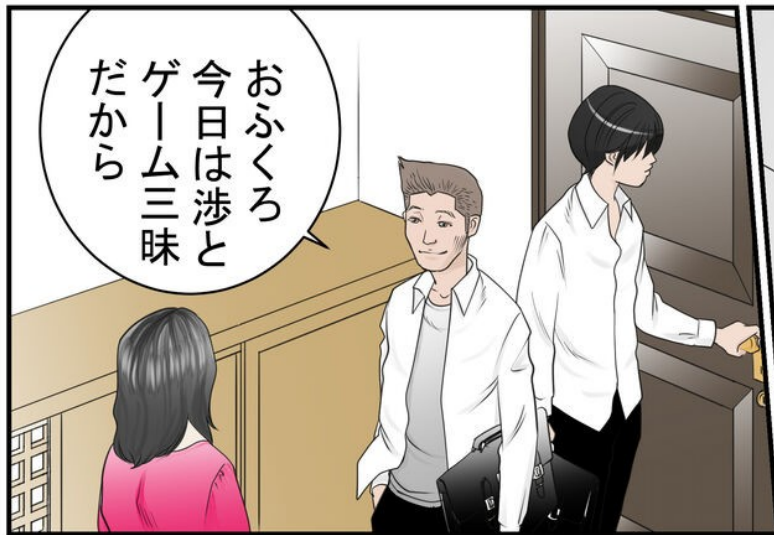


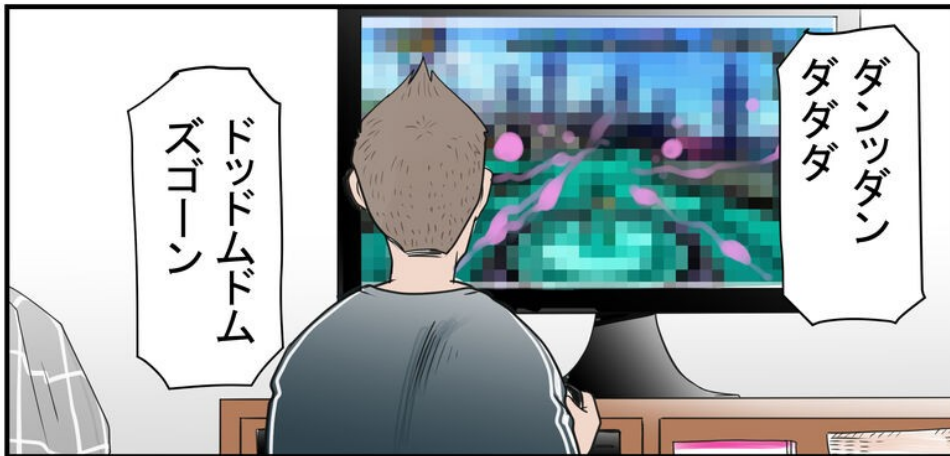
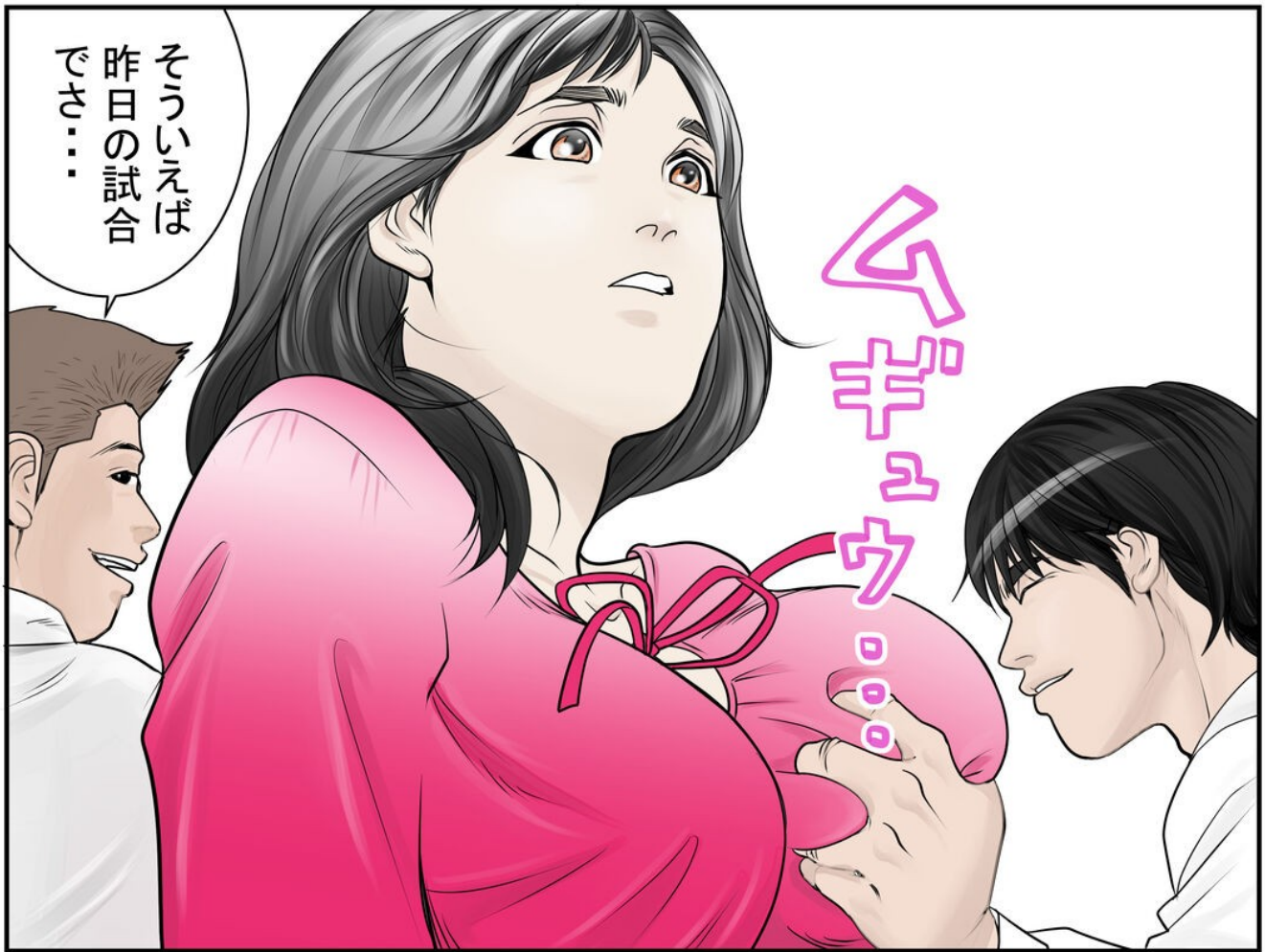


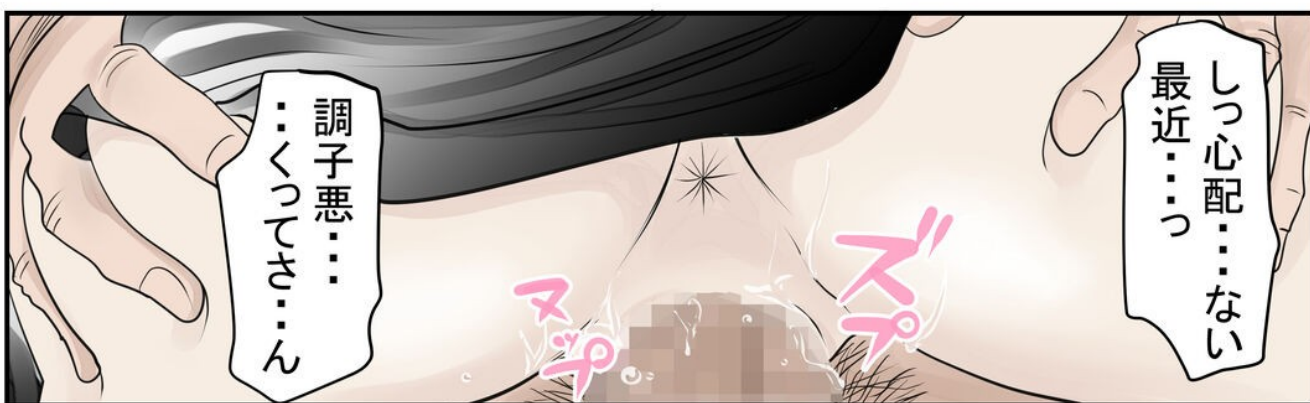
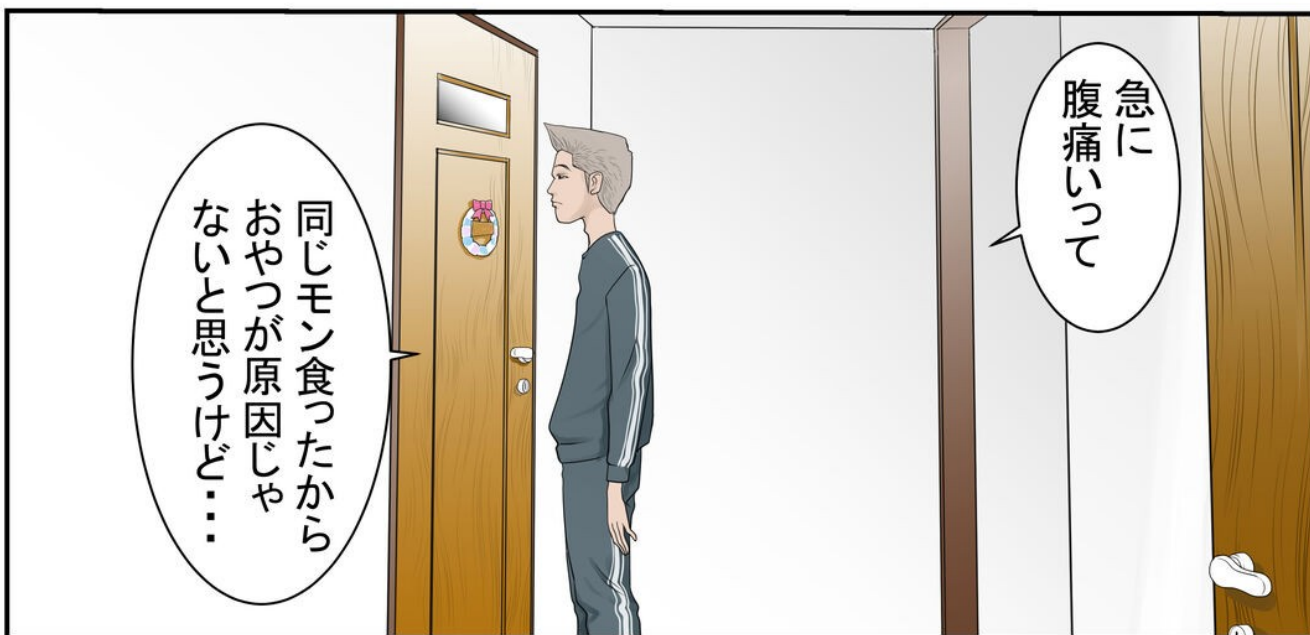
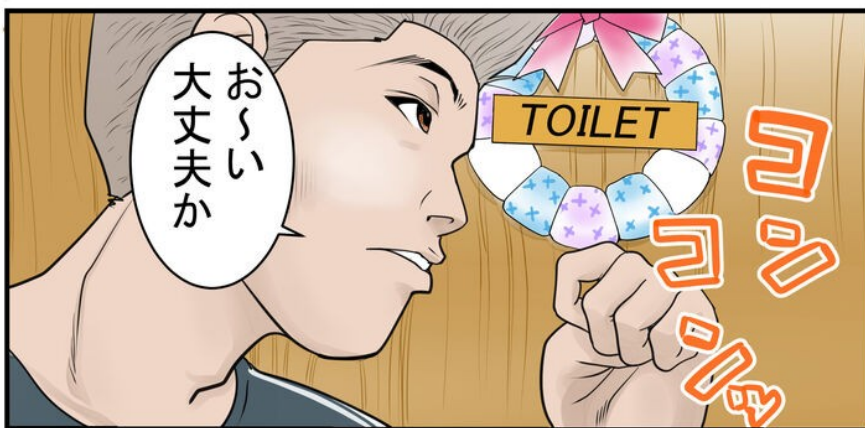
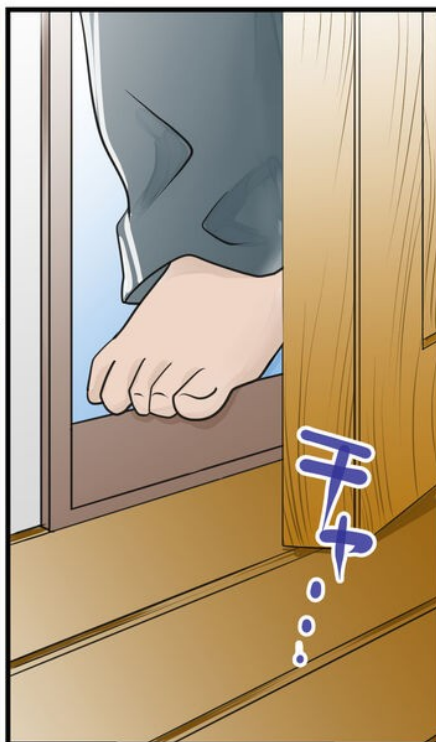
いつか...
バチがあたるんじゃないかって
思ってた...

...でも
まさか息子の友達と
こんなことに...

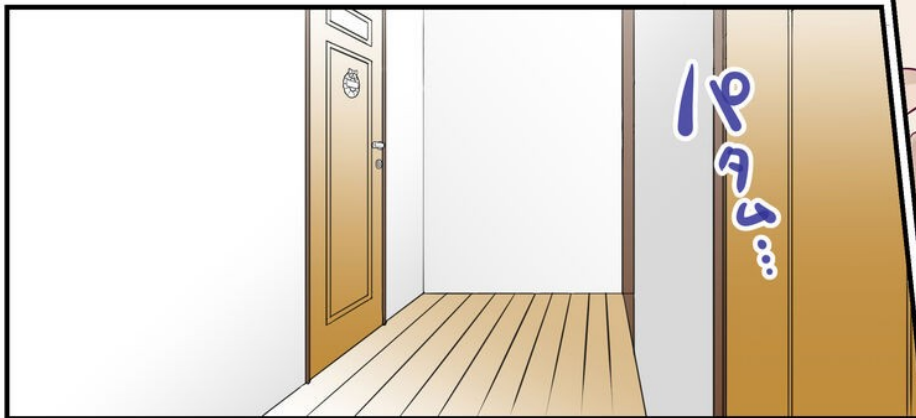


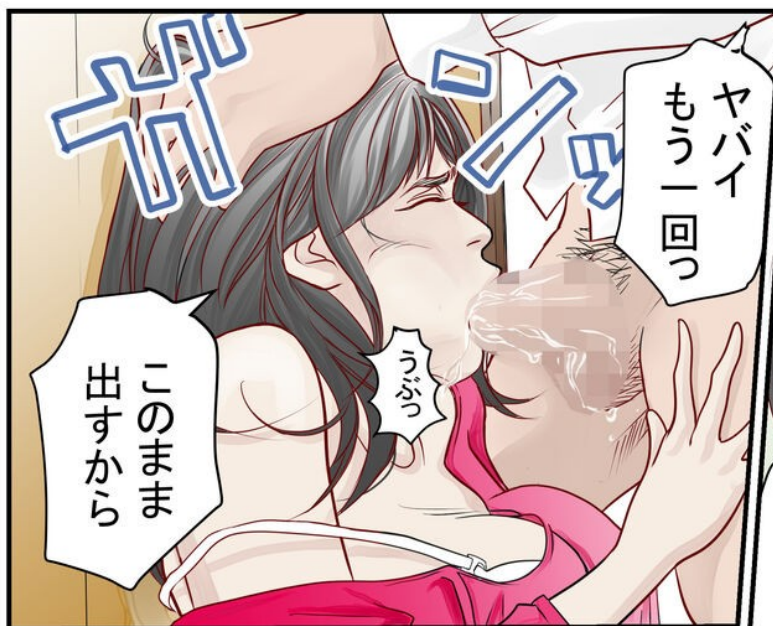
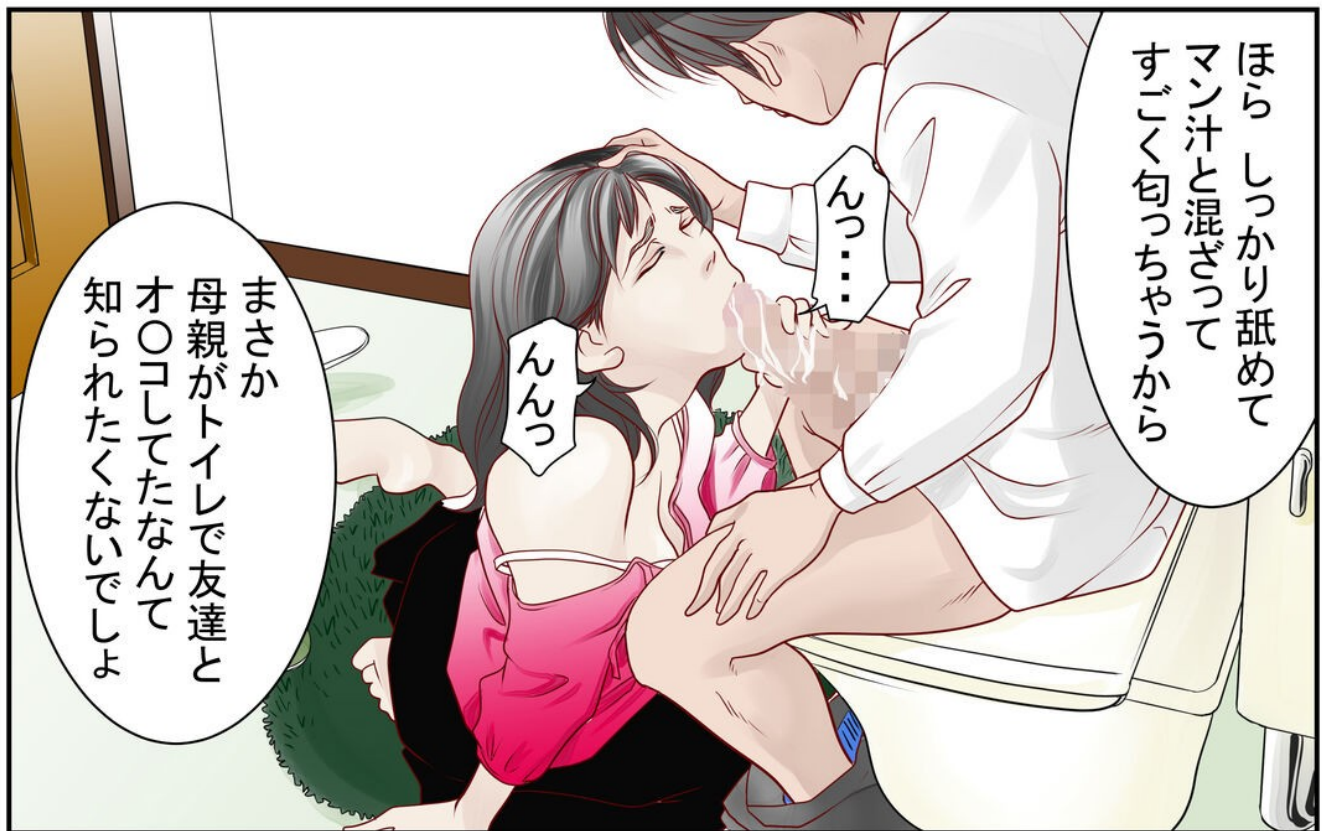


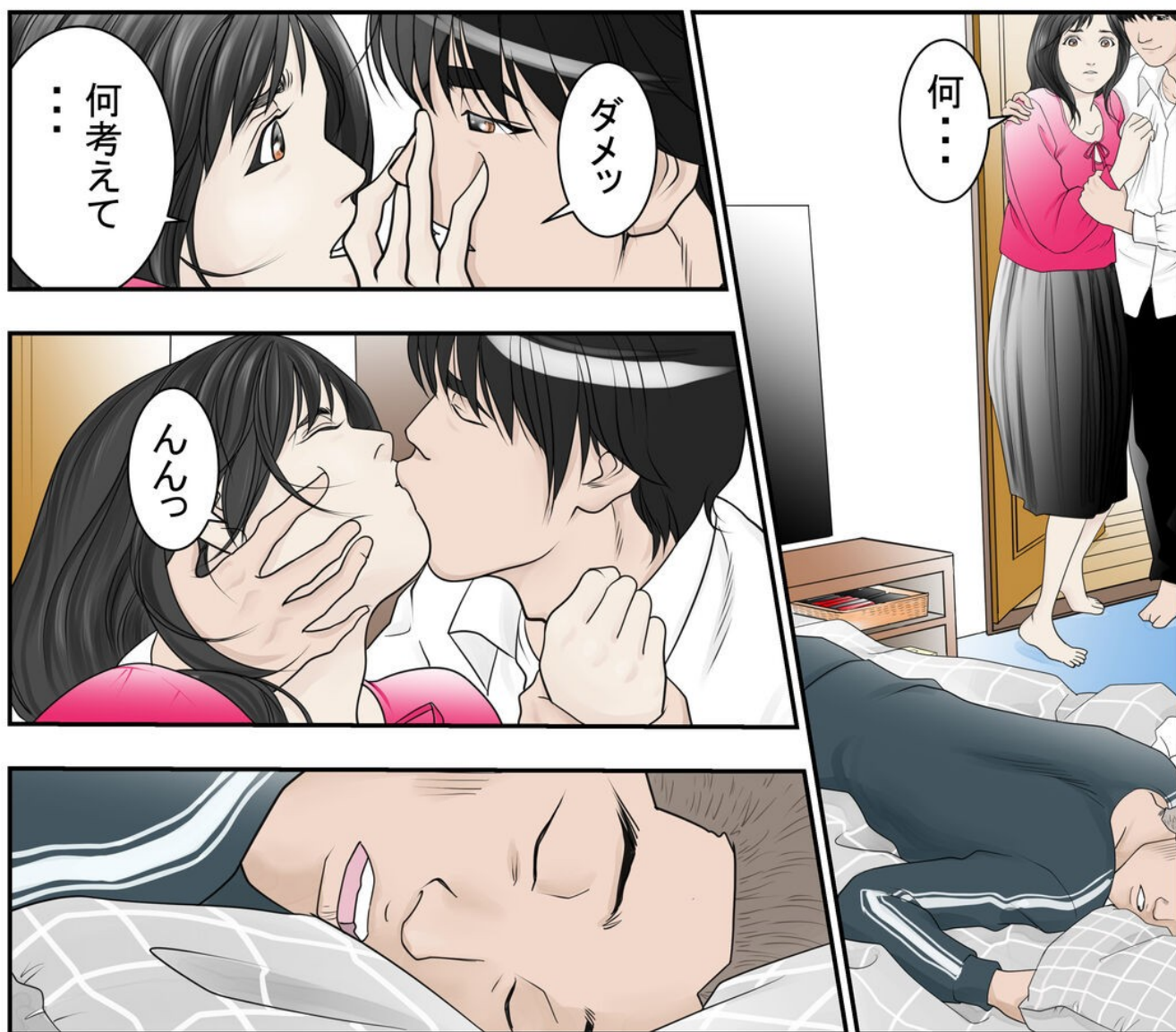


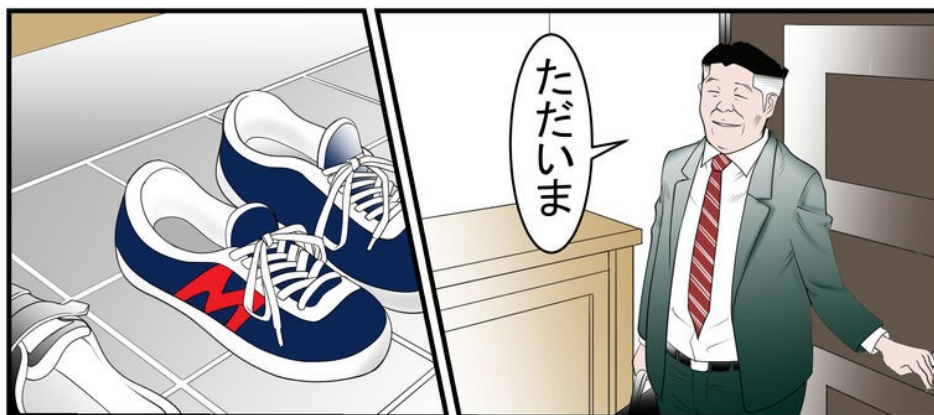
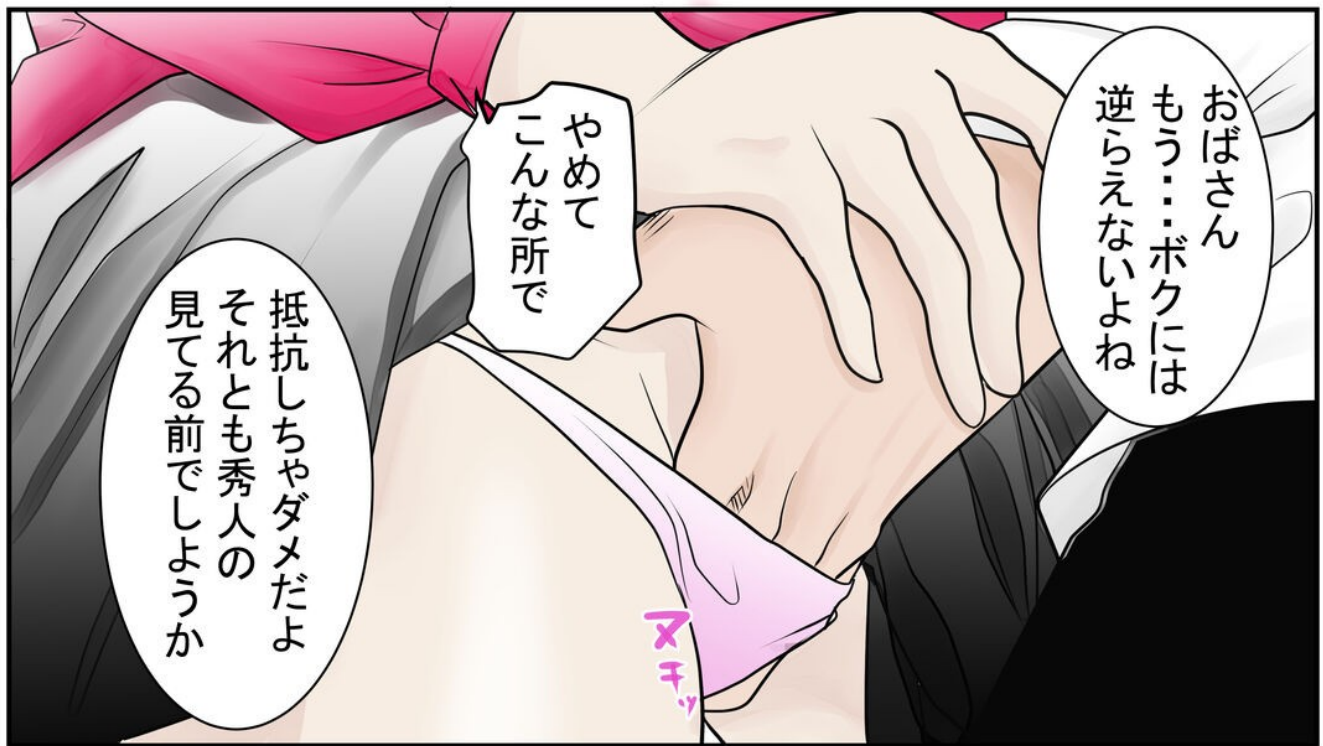


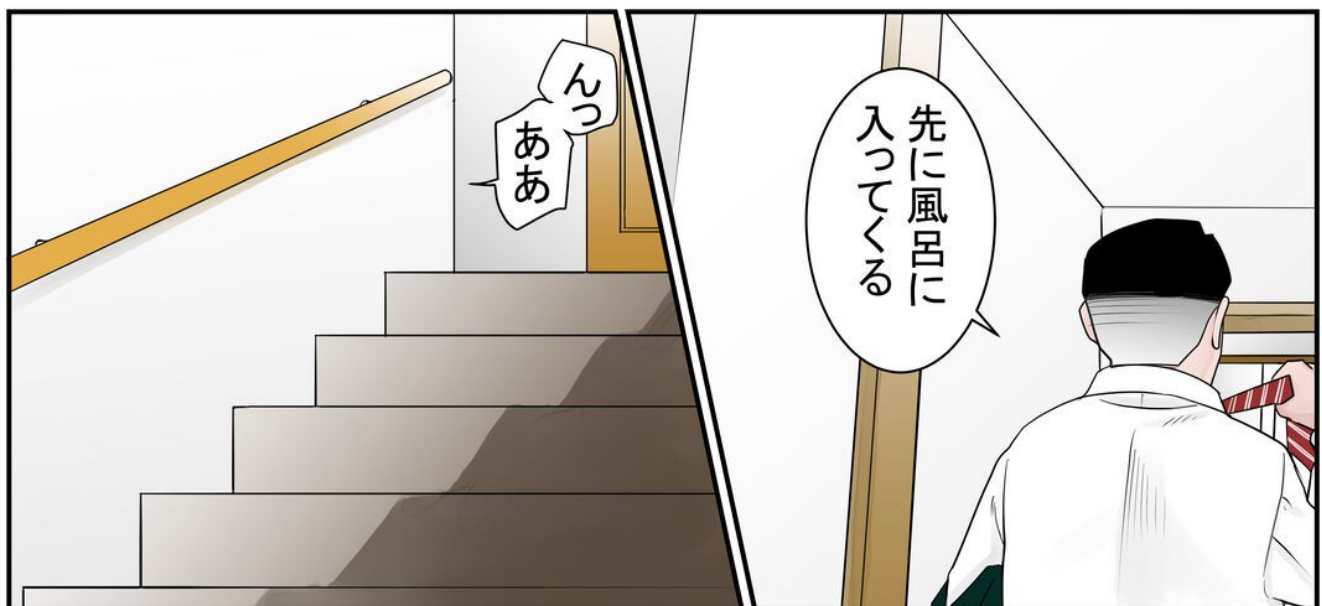
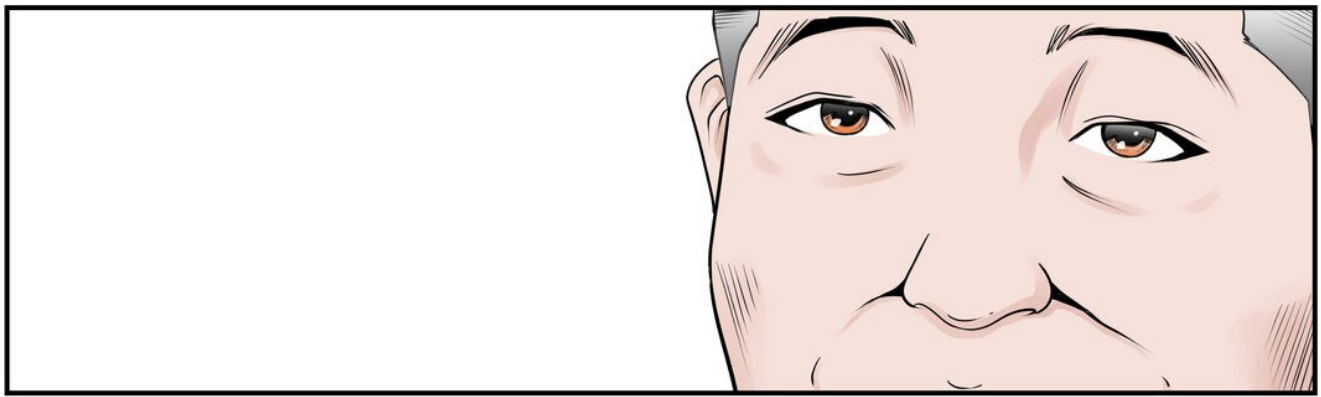


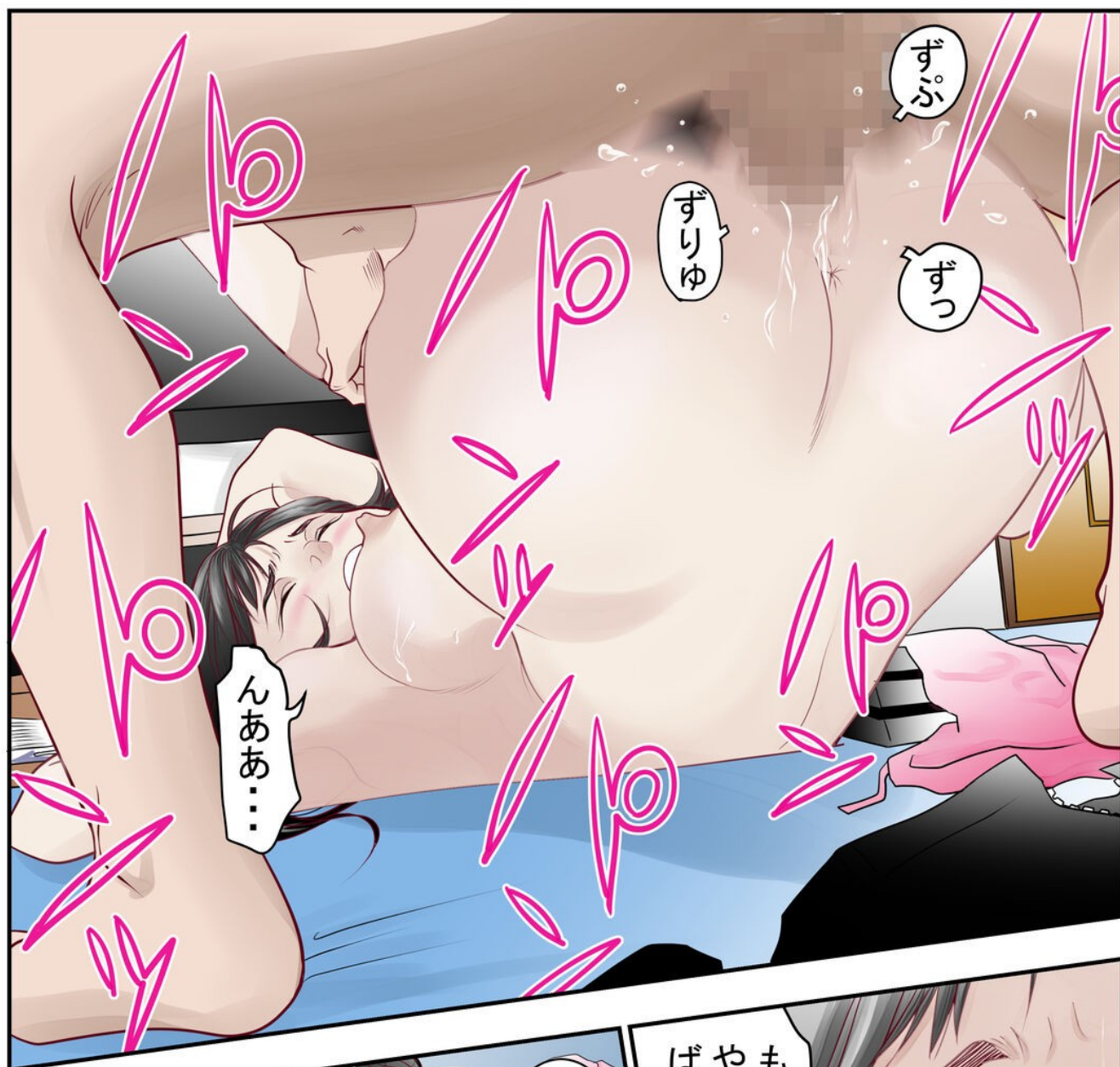






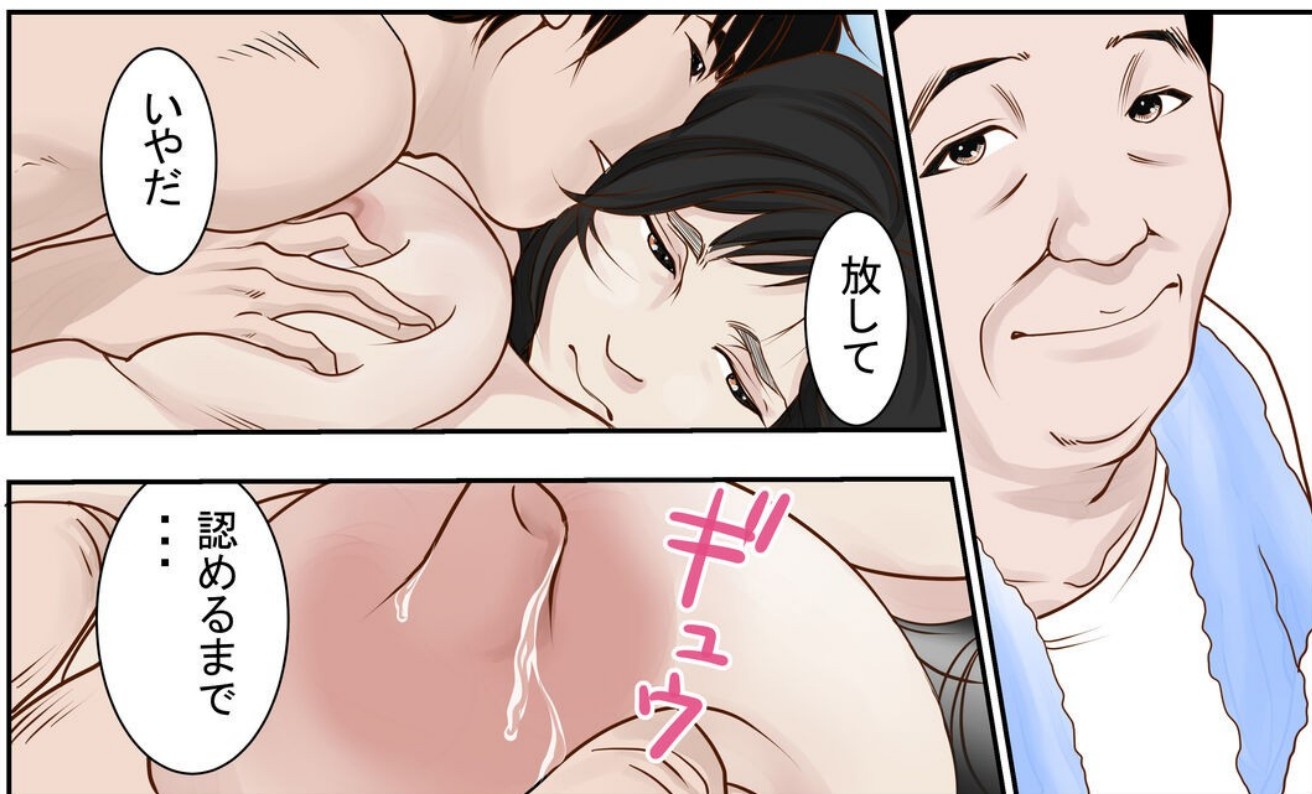
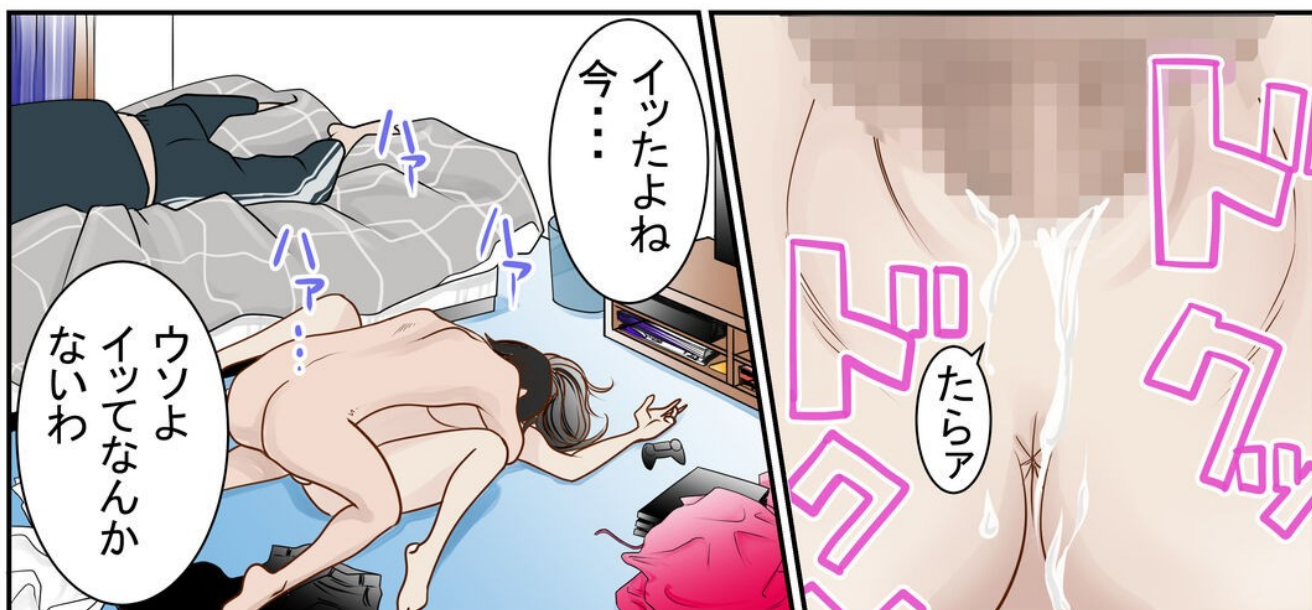
















イツたろ
正直に言ったら
やめてやるよ

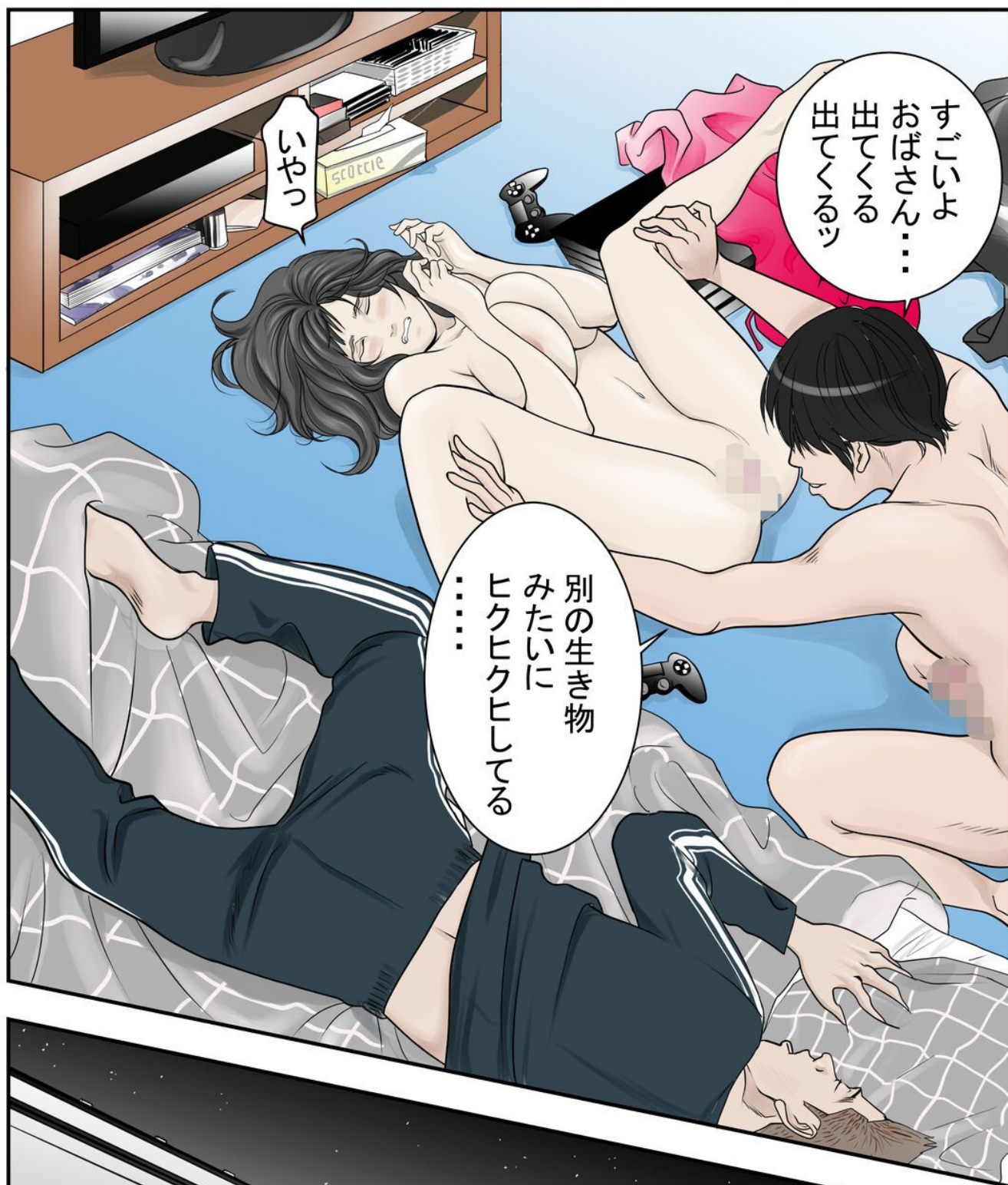
んんん

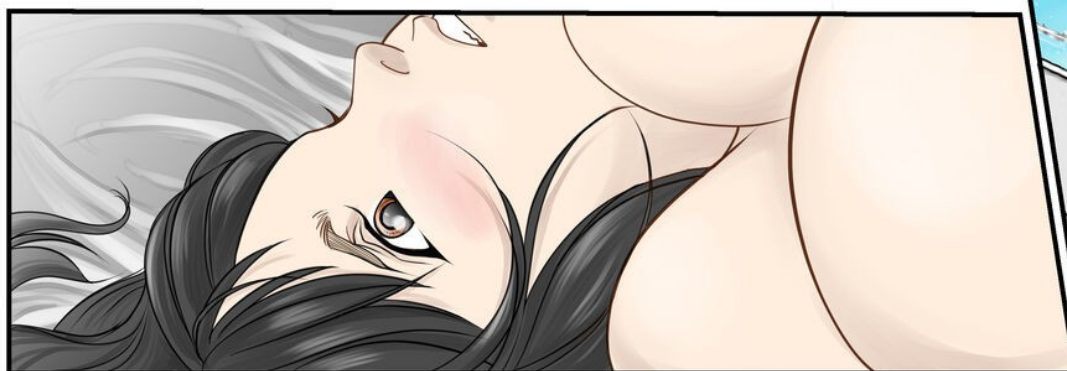
いっ...
イツたわ
もうやメ...

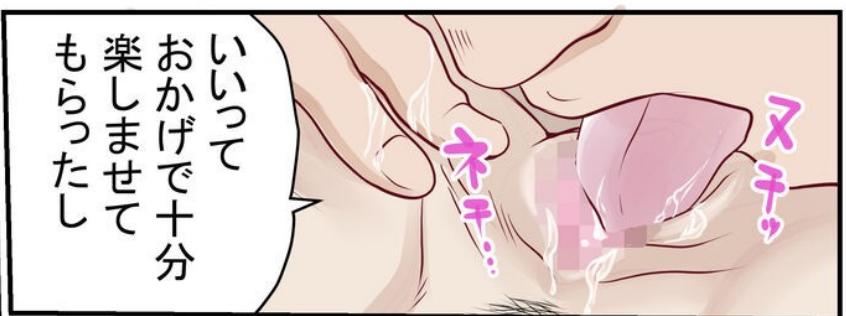
フッフ
おマ○コって
こんなにいんだ

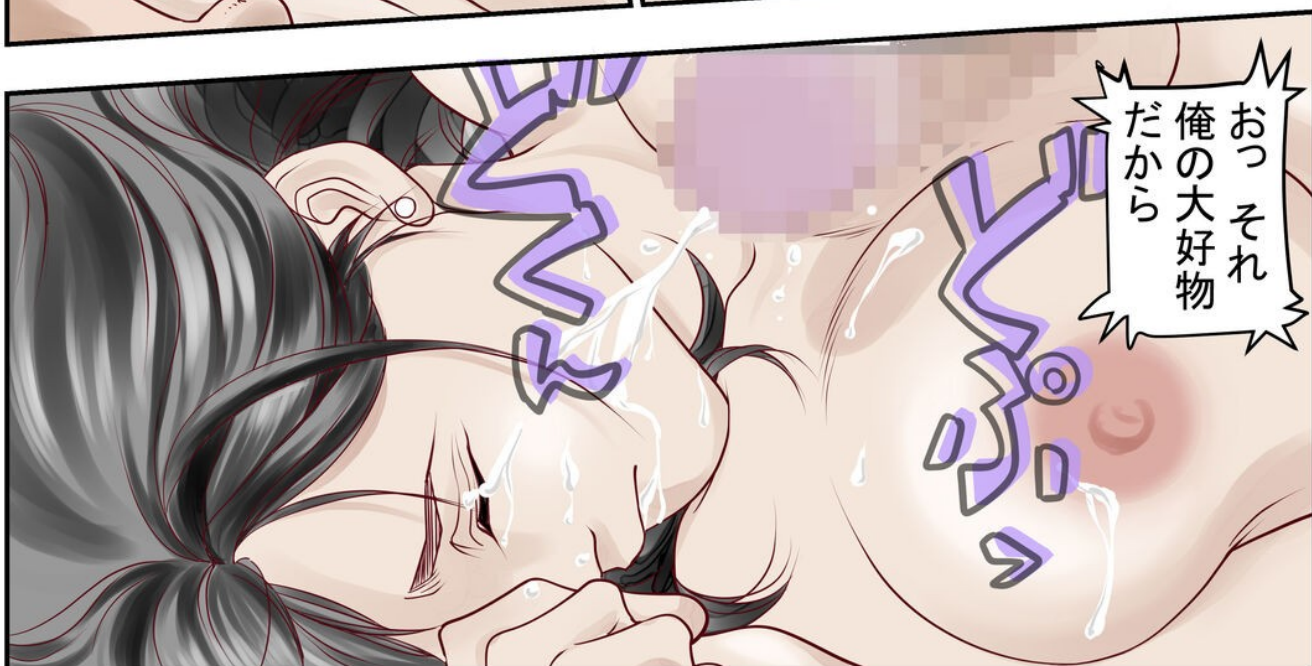
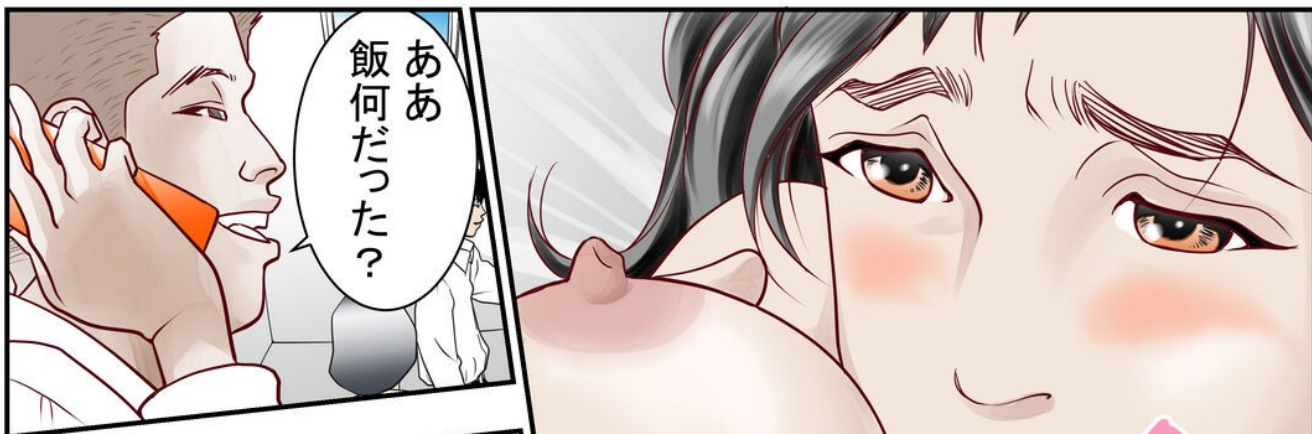
もう一回
出させて

あぁあぁあ
め

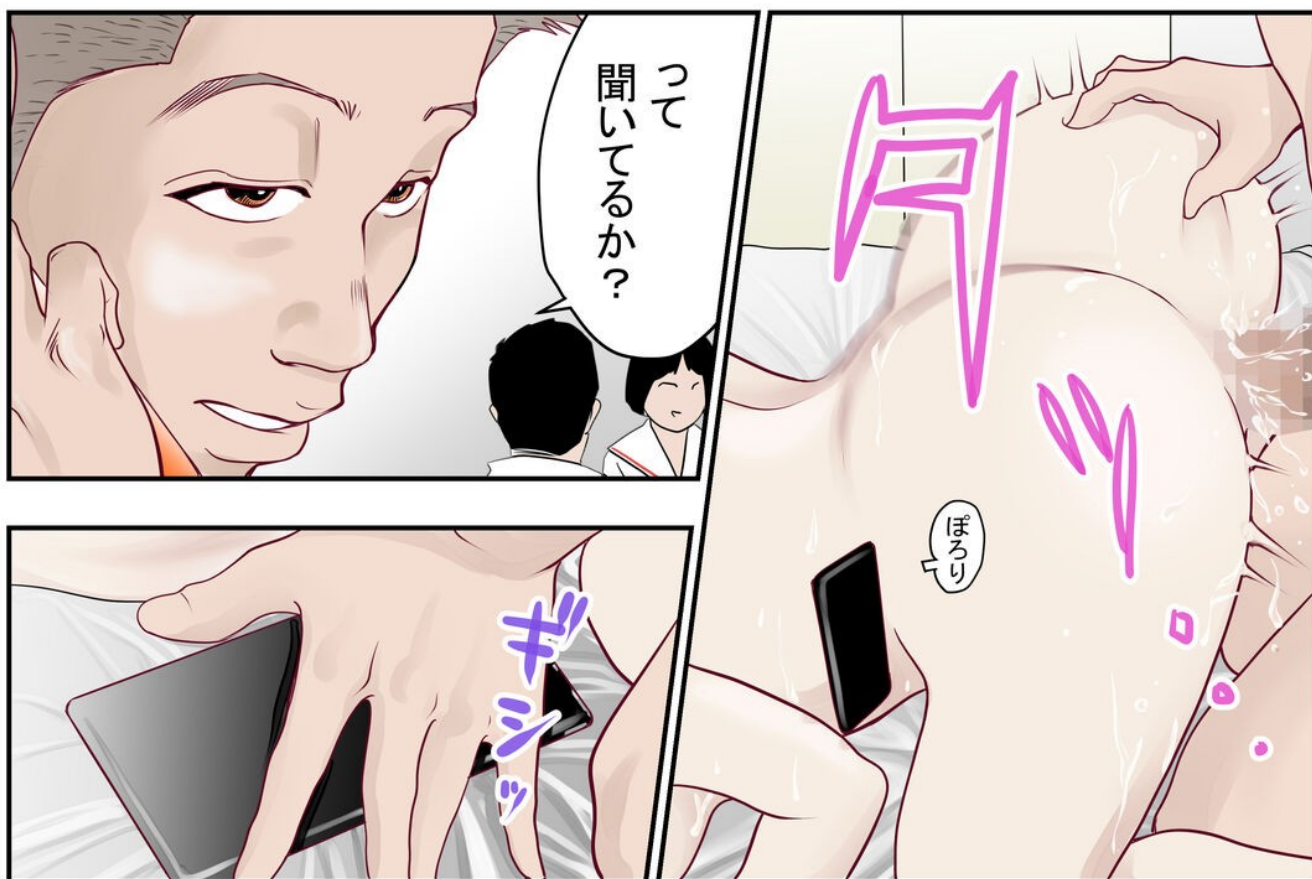


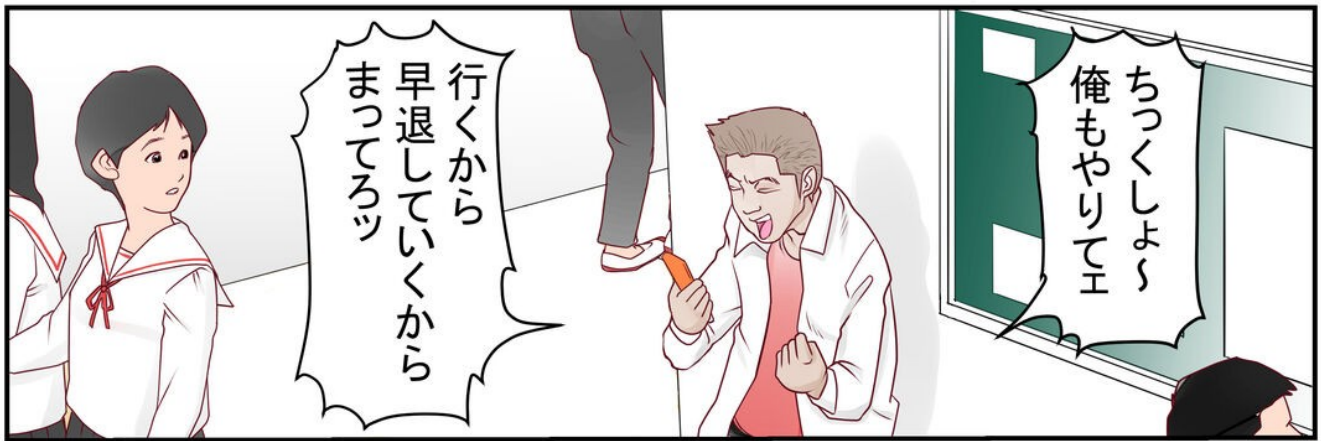


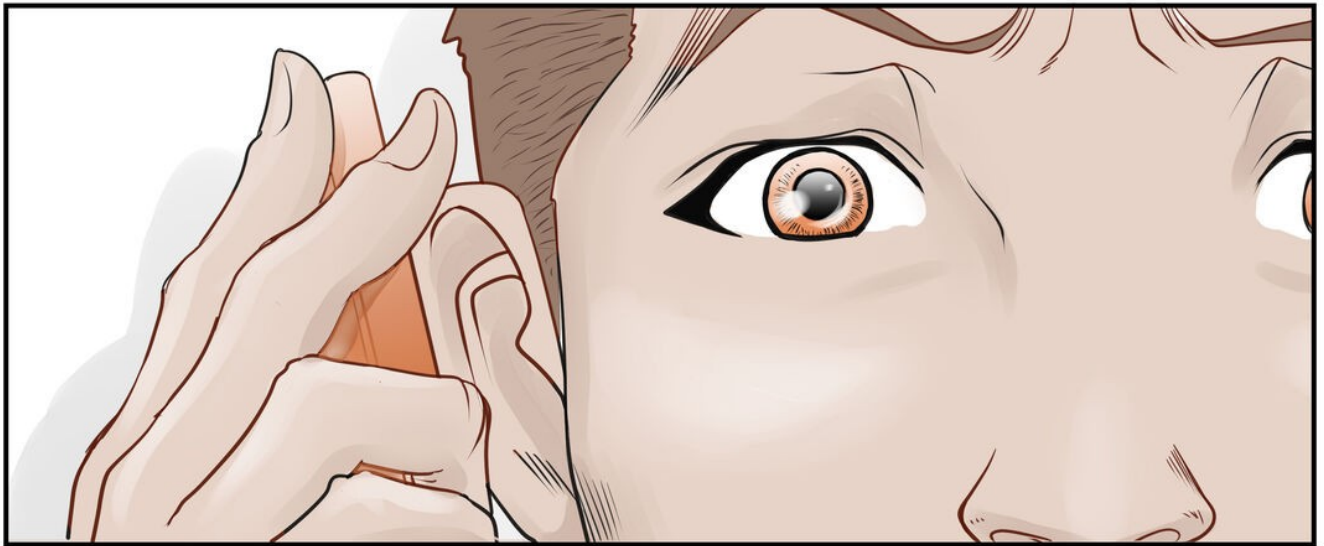














ああ、嬉しい
たくさん出して

私...もう
渉くんのオチ○チンなしじゃ
いられない身体に
なっちゃったから



秀人…

これでもお前はボクを…

友人と呼んで
くれるだろうか。

ビクッ

ビクン

ドロッ
ドロッ